



どんぐりはツキノワグマ、イノシシ、サル、ネズミなどの大小さまざまな哺乳類の食物となっているほか、オシドリなどの鳥類や昆虫類もどんぐりを利用しています。

どんぐりの結実状況は毎年変化しており、これを利用している生き物にも影響を与えます。中でも秋期のクマは越冬や出産のために栄養を蓄

えなければならず、どんぐりの結実状況が悪いと標高の低いところまで行動範囲を広げることがわかっていきます。

結実状況調査は、クマなどの大型哺乳類が人里へ出没する可能性の大小を把握し、地域への注意喚起に役立てる目的で実施しています。

調査しているブナ科 (画像は8月)



ブナ



ミズナラ



ヤマグリ



コナラ

調査の方法

どんぐりの結実状況は木全体を双眼鏡で眺めて、右の基準を基に判定しています。

樹種によって調査本数は異なりますが、全体で206本調査し、「樹種ごと」「地域ごと」に結果をまとめています。

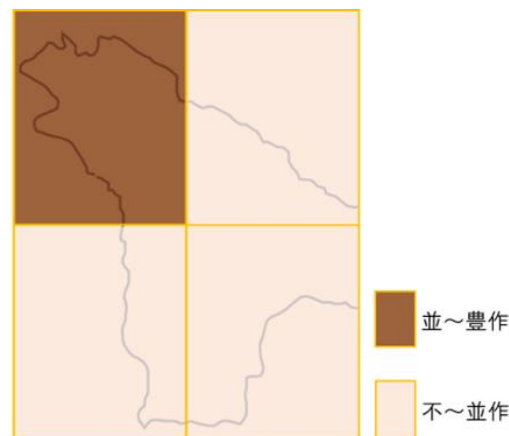
豊作	木全体にたくさん
並作	一部にたくさん 又は木全体にまばら
不作	一部にまばら 又は全体に数個
凶作	全くない

樹種ごとのみのり

樹種	ブナ	ミズナラ	ヤマグリ	コナラ
結果	並～豊作	並作	不～並作	並作

地域ごとのみのり

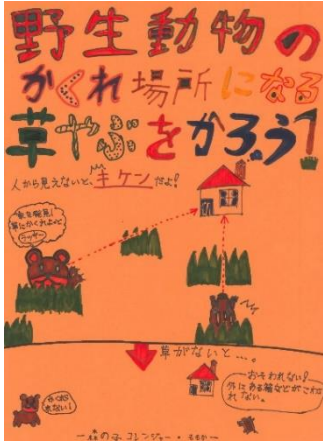
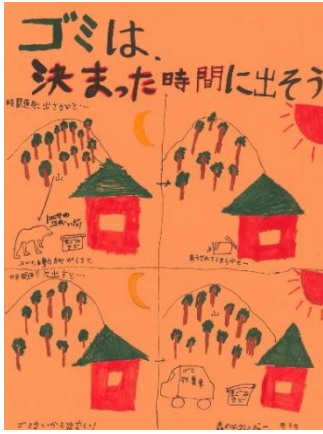
市の西側全体の結実状況
今年は「並作」です。



補足

どんぐりは、成熟するまでに様々な要因で未熟なまま落下します。特に近年、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、ナラ類、シイ・カシ類の主に大径や老齢の樹木が集団的に枯損する「ナラ枯れ」が発生しており、市内全域でも確認しています。

通常、梅雨明け後から晩夏の時期にかけて急速に枯れますが、10月までに枯れる個体や、まれに翌年の展葉期に枯れる個体もあると言われています。結実状況調査は8月に実施していることから、今後、結実量が減少する可能性があります。



* 漬物樽や肥料などは屋内に入れましょう
* 養蜂箱の管理をしましょう

コレンジャーが作成した「地域の暮らしと生物多様性を守り育むためにできることポスター」です。できることからご協力をお願いします。



9月に注目!!! ～ツリフネソウと〇〇～



ツリフネソウの蜜を吸うホシホウジャク

ホシホウジャクはスズメガ科の仲間で昼行性。空中で静止しているかのように飛びながら花の蜜を吸う姿は、まるでハチドリのように…(〇〇)! 何度見ても蛾とは思えません。

北海道から九州にかけて分布し、7～10月に咲くツリフネソウ。山地の溪流沿いや、やや湿った林内に自生する1年草。不思議な花の形を、釣舟(つるして使う船形の花入れ)に例えてツリフネソウという名がついた。

花には、ホウジャクやマルハナバチなどの仲間が訪れます。理由は、花の後ろの丸まったところ(距)にある甘～い蜜を吸うため。

ストロー状に細長く伸びた口吻で吸密する姿や、花に頭を潜らせる姿は、不思議な形の花と調和が取れているようで、尚更美しい。マルハナバチの仲間が、背中に花粉を背負って花から花へと移動(=受粉)する姿も必見です!



花粉を運びながら甘い蜜を吸うよ～(〇〇)♪



黄色い花のキツリフネ 同じツリフネソウ科